



"To acknowledge the duty that accompanies every right"  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

## THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER  
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17  
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN  
 PHONE (06)344-1717

# CENTENNIAL

Oct. 1983

II - 4

### THEME (1983~'84)

- I.P. REACHING OUT  
 `手を差し伸べて`
- R.D. CREATIVE POWER  
 `創造への熱情`
- D.G. 兄弟の愛をもって
- P. ONWARD CENTENNIAL

PART II

#### ◇「IBC-YEEP」強調月間く日本区◇

#### 10月例会プログラム

とき 10月19日(水) 18:30~20:30  
 ところ YMCA国際・社会奉仕センター

- |                           |             |       |
|---------------------------|-------------|-------|
|                           | 司会          | 柴田 健君 |
| 1. 開会                     | 山中 会長       |       |
| 2. ワイズソング                 | — 同         |       |
| 3. 聖句朗読                   | 河野 正義君      |       |
| 4. ゲスト紹介                  | 山中 会長       |       |
| 5. 食前感謝「日々の糧」             | — 晩さん — 同   |       |
| 6. 役員会報告                  | 山中 会長       |       |
| 7. スピーチ「ワイズダム発展のもとは出席にあり」 | 京滋部長 森田 恵三氏 |       |
| 8. 誕生日のお祝い                | 山中 会長       |       |
| 9. ニコニコ・アワー               | 黒田 厳君       |       |
| 10. 委員長報告・YMCAニュース        |             |       |
| 11. 閉会                    |             |       |

▲例会当番(河野、瀬戸、松崎、森田、柴田、長安)

#### ◇BF切手の整理月。例会にはまとめてご持参を!

#### ◇誕生日おめでとう

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 山村 利子メネット | 10月 9日      |
| 大野 公聖 君   | 1952年10月12日 |
| 安福 節子メネット | 10月17日      |
| 藤本まち子メネット | 10月20日      |
| 三浦 浩 君    | 1946年10月23日 |
| 正司 泰子 姉   | 10月24日      |

#### ◇結婚記念日おめでとう

- |            |        |
|------------|--------|
| 大野 公聖・啓子夫妻 | 10月10日 |
| 松崎 滋雄・久子夫妻 | 10月10日 |
| 田中 稔二・豊子夫妻 | 10月16日 |
| 河野 正義・良子夫妻 | 10月31日 |
| 森田 誠・一美夫妻  | 10月31日 |

Then he told them many things in parables, saying: "A farmer went out to sow his seed. As he was scattering the seed, some fell along the path, and the bird came and ate it up. Some fell on rocky places, where it did not have much soil. It sprang up quickly because the soil was shallow. But when the sun came up, the plants were scorched, and they withered because they had no root. Other seed fell among thorns, which grew up and choked the plants. Still other seed fell on good soil, where it produced a crop — a hundred, sixty or thirty times what was sown. He who has ears, let him hear."

イエスはたとえ話でいろいろ教えた。「種をまく人が種をまこうと出て行った。まいている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ちた。そこは土が浅いのですぐ芽を出したが、日が昇ると焼けて、根付かないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれを覆いふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のあるものは聞きなさい」。

(マタイオスによる福音 第13章3-9節)

#### 9月例会 出席者(在籍会員35名)

	第1例会	第2例会	Make up	集 計
メ ン	16名	16名	8名	24名
出 席 率	45.71%			68.57%
メネット	6名			
コメント				
ヴィジター	3名			
ゲスト	1名			
合 計	26名	16名		

- ◇ゲスト Mary Chanさん(シブYMCA)
- ◇ヴィジター 向井忠治郎君(大阪クラブ会長)  
 岩越重雄君、生地幸雄君(大阪クラブ)
- ◇メネット 岡本、黒田、鈴木、森、森田、山田メネット
- ◇ニコニコ 19,900円(累計 38,500円)

一く センテニアル・クラブに期すること

チャーター一周年を迎えて、この一年何かと身近でご指導を頂いた方々をお願いをして、これからのセンテニアルについてのご注文やご助言を寄稿して頂きました。

Onward Centennial Part IIの指針としよう。

設立一周年おめでとうございます

中西部直前部長 瀬田 桂司氏

光陰矢の如しと言いますが早いものであの華誕にして厳肅なチャーターナイトから一年が過ぎましたね。私も二度公式訪問させていただき、また中西部会、中西部新年合同例会、アジア大会、枚方クラブ等他クラブの例会で貴クラブの皆様と親しく接しさせていただきました。最初に公式訪問をさせていただいた時はビール例会ですっかりごちそうになりましたが、その時にメンバーの皆様方のスピーチをお聞きしまして、お世辞ではなく個性豊かな素晴らしいメンバーが集まったクラブだなあと実感致しました。その後いろいろところで皆様にお会いし、又ブリテンを読ませていただきましたが、これが設立一年目のクラブかと疑われる程にワイズメンとして大きく成長し活躍されました。今後は貴クラブの特色である国際性をより以上発揮され、国際関連事業において中西部と言わず日本区全体をリードする指導的役割を果されるよう願ってやみません。ワイズはインターナショナルとは言っても一部の人々を除いてまだまだ国際的視野をもっているとは言えず、貴クラブに対する期待は大なるものがあります。貴クラブの大いなる発展を祈ります。

大空に舞い上る風船にセンテニアルの姿を見た

大阪クラブ会長 向井忠治郎氏

チャーター一周年の記念例会おめでとうございます。

その間、ブリテンの内容から見ても充実した活動ぶりであり、早くもハワイ・ヌアヌクラブとのIBCを結ばれ、会員訪問も実現しておられます。先日のYMCAカーニバルでのご活躍も目ざましいものでした。

何と云っても、ベテランメンバーとフレッシュなチャーターメンバーの調和がとれて意気びったりという雰囲気があふれておりすばらしく、スポンサークラブとして大へん心強く思っております。これからは、国際社会奉仕と掲げられたクラブ目的での、一層の働きを期待します。

YMCAカーニバルで、私も風船に便りをつけて放ちましたが、どうしたことかうまく上りませんでした。もう一つ風船を頂き二つにしたら、どんどん大空に舞い上がって行きました。ワイズの日常活動においても、いつもみんなが元気とは限らない。メンバーの誰か一人意気上らなくなることもあります。そんな時元気な人が力を添えサポートすることによって元気をとり戻すということになります。六甲山頂から大空一杯に舞い上った色とりどりの風船を見てまさにセンテニアルの前途を見る思いでありました。

センテニアルクラブのますますの発展を期待します。

(9月例会でのごあいさつから)

横文字のクラブ名

大阪クラブ直前会長 遊上 義一氏

昨年チャーターナイトのパーティの席上であったか、祝辞に立たれたどなたかが「このクラブでは、例会は全部英語でやると同って参りましたが」とおっしゃって、一同どっと沸いたことがあった。「いいえ会員の入会資格としては《外国又は外国語に興味を持つ方》を条件としておりますが《日常会話は日本語とする》と定めております」との弁明があって、再び大笑いをした記憶がある。

元国際会長の鈴木謙介さんが自ら乗り出して、クラブ作りに懸命の努力を傾けられた甲斐あって、一年たった今日あの折々が抱いたイメージ通りのインターナショナルなクラブに発展していることを確認して私は大変愉快であった。

先日8月例会に出席させて頂いたが、ちょうどビールパーティも兼ねていたせいもあってか殊にその感を深くした。若手の方々のスマートな例会運営に上手に乗って、熟年のMENやMENNETTEらが、心から楽しんでおられる様子が心地よかった。

外国から来日されるお客様方は、一度はこのクラブを訪問される不文律が除々に出来上りつつある様である。この日は釜山アルファクラブの直前会長金文周ご夫妻と、釜山YMCA総主事の林信泳氏の訪問があった。外国といえはすぐに欧米に眼の向き勝ちな私たちにとって、韓国からのお客様は殊に象徴的であった。直前会長夫人が被露された韓国民族衣装をなびかせての、アリラン舞踊のおでやかさが強く心に残った。横文字のクラブ名に栄光あれ!

ま ず 親 睦

大阪クラブ 岩越 重雄氏

大阪センテニアル・ワイズのチャーター一周年お目度度う。さすが粒揃いのクラブだけあって、この一年の成長、充実振りは大したもの、ブリテンで拝見しても仲々一年生とは思えない、古参クラブの様な堂々たるものである。

新生ワイズは、当初数年間、メンバー親睦に徹すること、お互い年令、身分を超えて「イヨッ!」と挨拶するまでになることだ。

親睦による愛情の燃焼エネルギーをチャージして、序々にサービスに転進すれば良い。

ワイズの特徴は、全家族的親睦で、これは他の国際クラブにも無いもの。米国のクラブ例会に出てビックリする事は、その仲の良いこと親戚身内以上、ヨソのメネットと抱き合って、時に振り廻して挨拶して。ヨソの子供とも親子の様に呼び合う。服装、身なり、体裁を超越して、会合し、働いて居る姿は吾々の感覚からアキレる程だ。

どうぞ全メンバー、一致してクラブを吾が物とし、お客様気分や、威厳をカキ棄て、何の気兼ねもない仲となられる事だ。

どうやら、その点既に相当な成績を上げて居られる様子、尚この上もワイズリーに燃えて下さい。

### 祝 創 立 一 周 年

大阪長野クラブ 木下百太郎氏

昨年(1982年)9月25日チャーターナイトのおひろめをされて早一年。感激のチャーターナイトで日本全国から馳せ参じた人達から「大阪センテニアルクラブの人達は国際的感覚を備えられた方達ばかりである」と非常に羨ましがられたものでした。何と申しますか国際クラブに相応しい、所謂国際的なスマートさを備えられたクラブであると思います。どこのクラブでも同じ経験を持って居ると思いますが、創立後一年間と言うものは何も分らない儘に部や日本区から言うて来る事に追い廻され、ジックリ基礎固めや考える間もなく駆けずり廻っているのが現実だと思えます。一年過ぎますと何とか落付きかけ自分の足許が見えて参ります。私自身は非常に慎重派で兎でなく亀なものですから「ワイズは他の国際クラブの様に派手であってはならない常に地味であるべきだ」と言っでは人に笑われ「だからお前はいつ迄経っても駄目だ」とよく嘲笑されるのですが、基礎固めに時間をかける事が一番大切だと思うのです。

創立一周年を迎えられた大阪センテニアルクラブ。これからが一番大切な時期に入って来ると思います。メンバーメネットの相互の協調、共感性を重視して健実着実に一步一步伸ばして行って下さいます様祈ってやみません。創立一周年おめでとうございます。

### みんなが作るクラブカラー

土佐堀クラブ 今村 一之氏

「英語で例会を開くクラブができるそうなの」という声を聞きました。東京でも、以前そのようなアイディアが出たと聞いていました。しかし実現していません。

大阪で第一号ができるとなると、やはり「ワイズは大阪」という事になると興味を持って見ていました。

しかし、壁は厚かったようです。

名前は大阪YMCA 100年を記念して、大阪センテニアルとスマートに決まりました。国際的にも通りがよいように思います。そして多分、「何故センテニアルか」という事になり、対話のきっかけ作りによるしいのではないのでしょうか。絶妙のネーミングは、マーケティングのベテランと知恵者揃いのクラブならではと感心しました。

元国際会長の鈴木さんと谷川ICMを擁し、現在日本区第一の国際派クラブという事になります。クラブ設立に当り、土佐堀も多大の犠牲を払って、中村、谷川の両君を送り出しました。お二人とも海外に強く、この穴埋めは簡単にはできません。誕生と共に備わった、この特性をこれから、益々生かして、日本区と世界のワイズのために、貢献していただきたいと願うものです。

一度、CSについて、話をするようにとお招きを受けたことがありました。その時の印象は、このクラブは今、成長期ののだナという事でありました。何人かの超ベテランがおられても、いろいろな事について、解説が入り、勉強中という空気がありました。古いクラブに入った新しい人は、それこそ放ったらかしで、苦勞してついていかなければならないのだという事を改めて気付きました。チャーターと共にワイズ生活を始めたメンバーの皆さんは、幸せといえそうです。歴史あるクラブの新人教育について、考え

なければと思います。

クラブ活動は「イキ」をしています。氣勢の上る時、どうもうまく行かぬ時、これは避けようがないと思います。絶えざる研修が、落ちこみを小さくし、着実な前進を約束する事になります。この一般論を実行するのは、大変難しい事ですが、やらなければならないというのが私の持論です。云わずもがなのお説教になってしまいました。お許しください。充実の一年、おめでとうございます。今後の益々のご発展を願っております。

### 例会場に変化をつけて緊張感を

京都パレスクラブ 大野 嘉宏氏

山中会長の格調高いスピーチのチャーターナイトからもう一年たったのです。鈴木さん 黒田さん 谷川さん等の大ベテランと、個性豊かなメンバーの方々で国際性を打ち出したクラブとして、ユニークな活動をされてきた事と思います。この間、私は一度も例会に出席出来なかった事を残念に思います。

さてセンテニアルが、更に発展して頂く為のアイデアとして例会場を一考される事を提案させて下さい。YMCAのサービスクラブとして、YMCAで例会を持つ事が良い様に思えますが、YMCAを一步はなれた観点から見るという事や、YMCAを例会場に行っている多くのクラブの陥りやすい欠点、即ち、身内感が強すぎて、出欠の返事のルーズさ、例会時間のルーズなクラブにならない為にYMCAをはなれて例会をするのが良いと思いますが如何でしょうか。緊張感があり、しかもムードの良い会場で時間に正確なプログラムによって進行する例会を重ねて行く事が、クラブの大きな目的である自己研鑽へのトレーニングになるのではないのでしょうか。

益々の御発展 お祈り致します。

### 時代に即したワイズの生き方を

神戸クラブ 橋本 和子姉

センテニアルクラブが、大阪YM 100年の歴史の土壌の上に、前進と充実を願って誕生して、一年が過ぎました。熱気に溢れて夢を語り合った当初をふりかえる時、地味でルーティンに流れる日常活動に、焦りを覚えられる事があるでしょう。ワイズの基本理解と、諸行事の消化を以って一年が経過した今、「国際的社会奉仕に努める」という特色を、どの様に生かしていくかは、今後の課題でしょう。

新しい時代に即した、ワイズの生き方を、示して下さいるものと期待して居ります。大阪YMCAの躍進を支えるワイズの関り方を、みつけて下さい。ビジネスの都市である大阪は、人的資源が豊富だと思います。人が生かされ、用いられていく過程で、クラブの充実は深まるでしょう。すばらしい仲間と共にスタートしたクラブが、更に、すてきな仲間を加えて居られるのは、飛躍への力です。力をあわせて、クラブ設立の際の夢は何? どの様な形で? と問い直しながら、一年の計画をたてて下さい。世界のもの、みな一つとならんために という祈りをもって、ワイズの側から出来るものをみつけていって下さる様願っています。

ベンシー・岩越師の名演にうっとり —9月例会—  
 昨年9月25日、チャーター・ナイトの感激に酔いしれて  
 よりはや一年。記念すべき9月例会には、生みの親大阪ク  
 ラブから3名のお客様をお迎えした。向井忠治郎会長は、  
 「六甲カーニバルで大空一ぱいに舞い上った風船にセンテ  
 ニアル発展の姿を見た」と祝辞を述べられた。昨年チャ  
 ーターに酒ぎつけるまで密着指導を頂いた生地幸雄氏。記念  
 講演をお引き受け下さった岩越重雄大先輩を囲んでの、う  
 ちとけた記念例会であった。それにサラワク・シブYMC  
 Aからメリー・チャンさんというゲストも加わり、センテ  
 ニアルならではの国際ムードにあふれた。

メイン・イベントはベンシー・岩越師匠による講談「ジュ  
 リア・おたあ物語」。堺の商家から豊臣秀吉の武将となっ  
 たキリシタン小西行長が、戦乱の韓国から連れ帰り自分の  
 娘として育てた「おたあ様」豊家没落、行長刑死の後には家  
 康の元へ送られながら、キリスト教へのひたむきの信仰、  
 愛の祈りによって多くの帰依者を得た。家康のキリシタン  
 禁制にも信仰を捨てず、遂に伊豆大島に流されたが、こ  
 こでも「おたあ」の愛は荒らくれの流刑人や島民に祈りと信  
 仰の輪を広げた。死後「大明神」とあがめられ、今日もな  
 おミサが続けられているという。かよわき女性の数寄な運  
 命と強い信仰の物語の名調、名演に一同うっとり聞きは  
 れた次第。記念すべき例会に、新たな記念を添えて頂いた  
 ことは誠に感謝であった。

大阪クラブより一周年のお祝いとして金一封を頂戴し、  
 「いつも何かにつけて、ご援助を頂くばかりで感謝のほか  
 はありません。私達が大阪クラブの為に何かお役に立てる  
 ような力を一日も早くつける様、頑張ります」と山中会長  
 よりお礼を申し上げた。



#### センテニアル風船大空に舞う—YMC Aカーニバル—

9月15日(祝)恒例のYMC A六甲カーニバルが六甲研  
 修センターで開催された。センテニアルは初めての協力参  
 加で企画にもアイデアをこらし、世界コミュニケーション  
 年にちなんで「風のたより」を演出した。

当日は、鈴木、田中、谷川、柴田、森田、山田の各ファ  
 ミリーと独身組の中川、西出両君、それに飛入り応援のお  
 友達(?)も参加。背中に風船をつけて一枚100円のメッ  
 セージカードを「あなたの夢を飛ばしてみませんか」など  
 と売り歩く。鈴木家の孫コメットもお手伝い。2時間程で  
 175枚の売上げ。思い思いにメッセージとサインを書いた  
 カードを持った人達が中央のグラウンドに集合し、12時20分  
 200コあまりの風船が森田君の合図と共に一斉に大空に  
 舞い上る。期せずして居合せた人々から拍手が湧き、子供

達の歓声がる。中にはいろんな思いを込め過ぎた為か、  
 ふらついて上って行かない風船が出る。サービスで風船を  
 二つにすると後を追ってどんどん昇って行く。カーニバル  
 の人気をさらってしまった瞬間であった。

風船が豆粒のようになった頃、あたかもイベント終了を  
 待っていたかのようにポツリ、ポツリと雨が落め始め、や  
 がて六甲山特有の強い驟雨となる。もう5分ずれていたら  
 台無しになったであろう。誠にラッキーという他はない。

風船の行方がどうなったか気になる所であるが、何と4  
 時間後名古屋に到着し、早速返事があったという連絡を受  
 けた。又鈴木孫コメットしゅん君のカードにも、東六甲に  
 住む教育大学生から便りが来て大よろこびとのこと。「幼  
 ない時のこのような体験は、YMC Aと結びついていつま  
 でもよい思い出となるでしょう」とおじいちゃんも嬉しそ  
 うに例会で報告された。

#### 〈 鋭視野・ASIA 〉

##### カンボジア難民村を訪ねて

民主カンボジア派の拠点ノン・ブルーに近いチャン  
 カイチェック村を訪れた時の事だ。ここには昨年1月  
 にも行って、1万数千人の難民が苦しいながらもまず  
 まずの暮しぶりを見ているのを見ていた。が、今回は  
 様子が違った。病棟の数が三つから六つに建て増しさ  
 れ、周囲にうじゃうじゃと子どもたちが群れていた。  
 見ると、どの子も頭の毛が異様に赤い。中には金髪か  
 と見まちがう子もいる。栄養不良のため、髪が黒く不  
 なるのだ。

病棟に案内されてさらに驚いた。特に乳児がひどい。  
 手と足が極端にやせ、腹だけが異常にふくれ上がって  
 いる。典型的な栄養不良だ。さっそく持参した薬や栄  
 養剤の点滴を始めたが、腕が細すぎて針が通らず、頭  
 の血管にリンゲル注射した子もいる。 — 中略 —

今年初めからのベトナム軍の乾期攻撃は、ゲリラ戦  
 の消もうを避け、無力無防備な難民村を標的にしたと  
 いわれる。いくつかの村が多数の死者を出して破壊さ  
 れ、生き残った人たちは何百キロの道を着のみ着のまま、子どもを連れて無事な村へ逃れた。ブノンチャット村も、そんな破壊された難民村の一つ。今年3月、明け方4時ごろ、ベトナム軍が村全体を包囲して砲撃を始め、武器を持たぬ村民は逃げ口を失ってベトナム軍のなすがままだったという。

そのうち7000人がチャンガイチェックに流れ込ん  
 できて、先に述べたような有様になったのだ。3月の  
 砲撃から、たどり着いたのは6月。その間、1才未満  
 の子どもの大半は死に、90%の人が何かの病気にかか  
 っていたという。粗末な病棟の竹の床に、やせておし  
 りの肉もなくなった子ども、虚脱状態の人たちが横た  
 わるのを見て、私は声をかける勇気を失っていた。

実際、タイ政府の発表によっても、難民は増えてい  
 る。現在、国境に約70万人。2年前は20~30万人とい  
 われていた。カンボジア内部から、国境へと続々出て  
 くる難民の存在は何を意味しているのだろうか。

(朝日新聞掲載、カンボジア難民救援会レポートより)

今月の聖句によせて

黒田 巖之

この聖句は、同じ種類の種でも、その種がまかれた場所によって、枯れてしまうか、実を結んで何倍にも成長することを教えているが、種とはイエス・キリストの教えであり、それがまかれる地面は、私たちの心、あるいは心構えを意味している。キリストの教えは同じであっても、それを聞く人の心構えひとつで、あるいは、受入れ方の違いで、その教えが本当に役立つかどうかが決ってくることを意味している。「耳のある者は聞きなさい」とは、謙虚な心で受け入れなさいという、意味の深い言葉である。Y'sメンはYMCAやY'sメンズクラブの発祥の原点であるキリストの教えに耳を傾けて頂きたいと願ってやまない。

メネット コーナー

森田 一美

今回より、ブリテンのメネット・コーナーを担当させていただくことになりました。今までこのコーナーを担当して下さっていた中村メネットがおめでたのため、私が引継がせていただくことになりました。(本当はあまり乗り気ではなかったのですが、このコーナーを担当すると子宝に恵まれるかもしれないと思い、つつい引受けてしまいました。)とにかく、一生懸命やってみますので、メネットに関する楽しい情報、ためになる情報などがありましたら、ぜひご協力お願い致します。

さて、早いもので、我センチアルクラブもチャーター一周年を迎えました。メネットのこの一年間の活動をふりかえってみても、中西部会、関西合同メネット会、日本区大会、高島屋デパートで行なわれました星野富弘「花の詩画展」のお手伝いへの参加のみならず、ピーズのブローチの作成にはじまり、伊藤ハム料理講習会、第一回メネットオークション、そして長安メネットご指導によりまず着物着付講習会など、我クラブ独自の活動にも精を出し、大変有意義な一年を過ごすことができました。ふつうの主婦として家庭におさまっているだけではとても聞けないようなお話も聞くことができ、いろいろな世界で活躍されている方々とも年令、世代を越えたおつき合いができる、そんなワイズメンズクラブを、私達メネットも全員参加によって、一年目より二年目、二年目より三年目と更に盛り上げていきたいものですね。

- 去る9月15日、六甲研修センターにおきまして'83YMCAカーニバルが開催されました。参加メネットは、柴田、鈴木、田中、谷川、山田、森田各メネットでした。センチアルクラブは、「風のたより」と題し、会場のお客様にメッセージ・カードを買っていただき、それを風船につけていっせいに飛ばすという、とてもロマンチックな企画で参加しました。当日はあいにくの曇り空で山の上というせいもあってか、少し肌寒いほどでしたが

風船が足りなくなり、仕方なくお客様にお金を返さなければならなくなるほどの売れゆきでした。

- 来る1984年4月、関西合同メネット会が開催されます。場所は、大阪YMCA100周年を記念して現在土佐堀に建築中の新会館です。センチアルクラブは、千里クラブ、豊中クラブと共にホストクラブとなっております。

「兄弟の愛をもって」盛り上げた中西部会

第33回中西部会は9月22日～23日YMCA六甲研修センターで、初めての一泊部会として、サウスクラブのホストで行われた。出席者220名。センチアルからは山中会長、杉本恭之助君、田中穰二君、鈴木謙介、美藤夫妻の5名であった。日本区理事田中眞君はじめ、国際役員及び日本区役員も遠くからはるばる参加。中西部の全クラブが多数のメン・メネットを出席させ部会を盛り上げた。評議会には山中会長が出席。礼拝奨励は枚方クラブ石田牧師が、ローマ人の手紙12章を用いて中西部長横山慶昭君のテーマ「兄弟の愛をもって」を適切に解説して一同に感銘を与えた。本日の献金は和歌山田辺の天神崎のナショナルトラスト運動に捧げた。NHK大阪の影山一夫ディレクターによる記念講演「ジャーナリストの目で見た青少年の心」は圧巻であった。初めから終りまで興味に充ちた良い話だった。子育て外註時代、今の子供のすごさ、お父さん出番です、等新らしい言葉がとび出した。今日の青少年問題は豊かさの中の悲劇、知識を捨てて知恵を出さねばならぬと結ばれた。食事はセンター心づくしの野外バーベキュー。

別にメネットアワーの間に3名の代議員選挙が行われ、小島(豊中)、藤原(土佐堀)、池田(泉北)、次点大岡(大阪)となった。国際議員報告は今村君(土佐堀)が谷川寛君の分も併せて報告。IBC-YEEPには今村、大岡、東の3人のお嬢さんコメントのしっかりした報告があった。時間が正確に守られて15時20分閉会。来年は奈良クラブホストに決った。(リポーター 鈴木謙介)

— YMCA ニュース —

▽先日の六甲ファミリーカーニバルの「風のたより」は大好評でした。お手伝い下さった方々、どうもご苦労様でした。当日飛ばした風船の1つが見事風に乗って数時間のうちに名古屋に到着、早速返事がありました。また、鈴木さんのお孫さんの風船にも返事が来ました。来年もさらに工夫を加えてカーニバル名物にしようではありませんか。

▽米国スプリングフィールド大学学長夫妻来訪

来年より社会体育学科を新設する大阪YMCAカレッジは、体育スポーツの分野で米国のトップレベルにあるスプリングフィールド大学との提携をすすめています。去る9月24日、同大学のロックリン学長夫妻を迎えて奉仕センターで最近のアメリカ体育スポーツ事情のお話と、歓迎レセプションが行われました。

▽第11回アジアYMCA指導者会議開催

4年に1度開かれているアジアYMCA指導者会議の第11回目が10月4日から香港YMCAで「新しい生命と希望～アジアの現実の中で」をテーマに開かれ日本からも約30名の代表が出席しました。

アメリカ "NOW"

谷川 寛

久しぶりにアメリカを廻りました。わずか15日の旅でしたが、ロサンゼルス、サンディエゴ、サンノゼ、シカゴ、デトロイト、そしてカナダのオンタリオ州ロンドンを駆け足で廻って来ました。この眼で見、人に聴き、自分で感じた最近のアメリカ、殊にアメリカの新しいライフスタイルを、私の独断と偏見にもとずき、お伝えします。

\* \* \*

アメリカはまさしく多様化の時代に入ったようです。ちょうど、私が滞在中に発行されたU.S. NEWS & WORLD REPORT 誌が、「80年代のアメリカのライフスタイル」という記事を載せていました。それによりますと、ファッションを例にとっても、最近はこれといったはっきりした傾向が流行にあるわけではなく、人々はそれぞれ思いの服装をしており (ANYTHING GOES) 「流行といえば、流行がないのが、流行である」 (THE TREND IS THAT THERE IS NO TREND) というようなことを書いていました。

あの「孤独なる群集」を書いた社会学者のデビット・リースマンも言っています。——群集はもう一度個人主義に戻り、人々は個人主義をベースに思い思いのかっこうをするようになった。また例の「第三の波」のアルビン・トフラーも言っています。かつて、マスプロ (大量生産)、マス教育、マス消費、そしてマスの大衆政治運動というように、集団化にもとずいて動いていた社会が、ここで180度方向転換し、集団化とはまったく逆の完全に個人を中心にした動きをするようになった。トフラーはさらにこのはっきりした兆候として、商品のマーチャンダイジングもここでそれぞれの顧客に応じたマーケット・セグメンテーションが求められ、テレビの番組も多様化の動きから、対象を各々小数の聴衆にしばった企画をすることが求められている、と言っています。人それぞれの独自のライフスタイルを追求する方向になって来ました。

フィットネス・ブーム

このような傾向にありながら、ただ一つ、アメリカ人に共通した大きな関心事があります。それはフィットネス (FITNESS = 体力づくり) だそうです。若くありたい太らずにスリムでいたい、という気持はアメリカ人に共通しており、この気持は過去には考えられなかったほど、今強くなっています。健康を保つため積極的体力づくりをしようとしています。それが証拠にアスレティック・クラブはおおはやりです。健康美容体操用の逆に宙ずりになる器具が\$700もしますが、これがよく売れているそうです。企業内フィットネスも静かなブームだそうです。

アメリカやカナダの各ローカルYMCAも、このフィットネスに力を入れ、これを売りものにしてしています。大半のYMCAが、立派な設備をもったヘルスクラブの運営で息をついています。

サンディエゴでホストしてくれた日系の老夫妻につれられて、YMCAのCARDIO VASCULAR EXERCISE というプログラムに参加しました。これは心臓と血管の体操だそうです。みんな夕方にYMCAのジムに集り、ジョ

ギング姿になり、最近のニュー・ミュージックにあわせて体操をやります。レオタードを着たジェーン・フォンダに似た金髪の美人にあわせて、みんな輪になり体操、いやむしろ踊りをする、といった方がよいかもしれません。

若い女性もいますが、50才代後半から60才代 前半の老夫婦が5組も参加していました。エアロビクスほど激しくありませんが、一時間後には、汗びっしょりでした。

自然食・日本食の人気

さて、このような健康体操の他に、女性を対象にしたボディビル、重量挙げに人気があるそうです。YM/YWCAの女性用コーナーにも、各種バーベルが準備してありました。このようなフィットネスに対する人々の関心は、当然食物に影響します。人々の最大の関心事は、食物の塩分を減らすことだそうです。LOW-SODIUM CHEESE NO-SALT CRACKER が売れ、自然食の店が繁盛しています。人々が非常に健康を意識しています。最近、牛肉やブタ肉の売上げが大幅にダウンし、魚に対する関心が強くなっています。日本食、「すしバー」は昼間でも繁盛しています。さしみブームです。砂糖の入らないアイスティー、カフェイン抜きのコーラ、軽いタイプのワインが売れ、いわゆるハード・リカー (HARD LIQUOR = ウオッカ、テキラ等) の売上げが落ちているそうです。

買物には慎重

人々はかっこよくみせたいということから、あらゆる種類の装いをしています。女の人の最大の関心事であるスカート丈、ヘムラインも、きまった流行はなく、長いのも短いのも、その中間もあるといった有様です。色も流行があるわけではなく、どんな色でもよいといった状態です。

景気は確かに上向いて来ていますが、未だ人々は先行きに不安を抱えています。したがって、すぐに流行がすたれるかもしれない服装にあまり多くのお金をかけません。買方も慎重になっています。景気は回復して来ましたが、アメリカの失業率はあいかわらず高く、就業の機会も実際にそう増えていません。そのため学生も以前に比べ、ずっとまじめになり、慎重になって来ています。彼ら若者も、この社会で生き残るには、一生懸命働かなければならないと感じ始めました。

大人の社会では、一時の乱婚ムードがすたれ、一夫一妻主義に戻って来ました。その理由の一つは、今大変恐れられているAIDS (後天性免疫不全疾患群) のことが影響しているようです。一時アメリカは、結婚もしないし、子供ももたないことがファッションだとされましたが今や、人々は結婚するなら今だ、今した方がよい、という風潮が戻って来ています。結婚することにより独身の時得られなかったセキュリティ (保障) を得ようとする傾向も出ているそうです。

もともと、アメリカ人は、このような保守的な面と反対に冒頭に述べた誰もが自分の好きなことを、誰にも拘束されずにそれぞれの方法で演出するという個人主義の方向を強く打出していることも事実のようです。

冒頭に引用した雑誌は締めくくりに———80年代のアメリカは、まさしく「多様化の時代」に突入している。それは不安の時代でもあるが、また同時に、いろいろ楽しいことも多い時代である、と結んでいました。